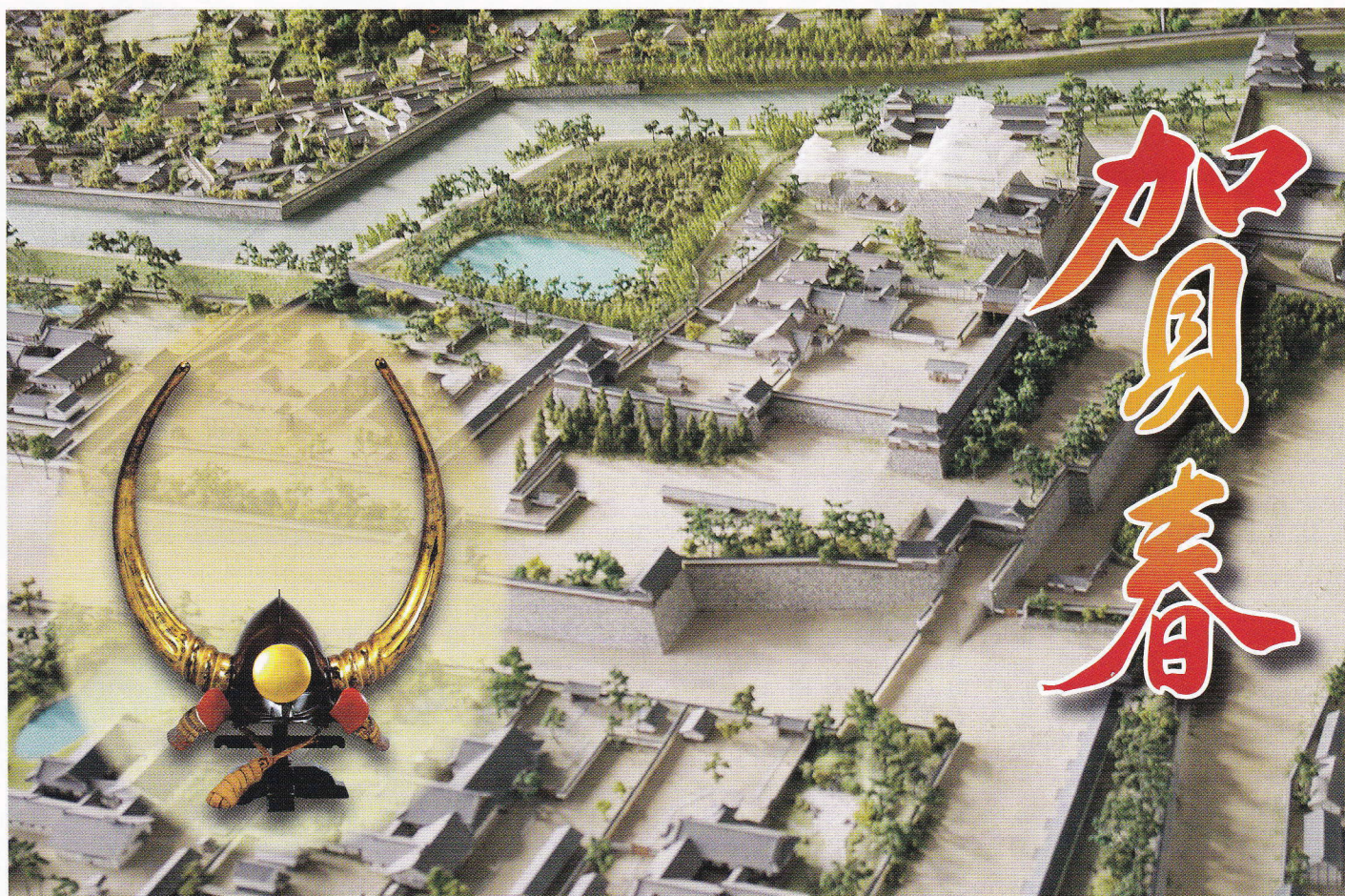


福岡城に天守閣を
— 城のある都市復活!! —

お城だより

2010年1月

No.24



福岡城本丸御殿（模型：しんわ福岡城資料室より）と黒田長政所用・黒漆塗桃形水牛脇立兜（福岡市博物館蔵）

福岡の強みを活用した地域活性化

福岡商工会議所

会頭 河部 浩幸



福岡商工会議所は、明治十二年に設立され、昨年百三十周年を迎えました。これまで、地域の活性化や地域経済の発展のために取り組んでまいりましたが、永きにわたり地域社会の一員として活動できるのも、市民や企業のご支援のおかげと感謝いたしております。

昨年は「おおほりまつり」に参加し、黒田長政公に扮して西公園・光雲神社からNHK福岡放送局まで黒田二十五騎武者行列をする貴重な体験をさせていただきました。鴻臚館や黒田藩の歴史を振り返り、今に伝えながら郷土愛を育むとともに、地域をあげて賑わい創りに取り組まれるという、わが街を愛してやまない地域住民の皆様の熱意に心を打たれるとともに、深く敬意を表します。

近年では、歴史遺産や伝統文化、自然、食など地域資源を活用した取り組みが盛んになっています。福岡商工会議所では、地域の商店街や自治会、ボランティア等と一緒に、「街なか観光」を推進しています。地域独自の歴史・文化を見て・聞いて・体験することを通して、福岡の都市観光の魅力を増進するとともに、地域の活性化につなげていきたいと思っています。

国際化や経済のグローバル化が進展するなか、とりわけ地理的にアジアに近接している福岡においては、今後さらに人的・物的交流が拡大してまいります。これら内外の観光客の方々にも、福岡とアジアとの交流の歴史にも触れていただき、ますますアジアのゲートウェイとして経済・文化の交流拠点として発展していくことを期待しております。

平成21年度新たな公による
モデル事業（国土交通省選定事業）

「市民参加の古代官道調査・活用事業」ハイライト

お城だより前号で報告した「市民フォーラムin福岡」に引き続き、十一月は多彩な活動が行われました。

「市民フォーラムin太宰府・筑紫野」
11月11日（水）13時30分～16時00分



筑紫野市生涯学習センターさんあいホールで、「万葉集と古代官道」をテーマにした講演会を行いました。7世紀から8世紀といえ、万葉集も古代官道も最盛期です。万葉歌人が古代官道の各地で歌っています。万葉歌が浮かびあがってきます。

水城では任期を終えて都に帰る大宰府（だざいのそち、大宰府の長官）大伴旅人が、愛しい人と別れを惜しんで「ますらを」と、思える我や、水茎（みずくき）の、水城（みずき）の上に、涙拭（のこ）はむ」と歌っています。水城の西門か東門が送別の場所になっていたことが解ります。太宰府発見塾長森弘子氏の「万葉人の旅」、太宰府市教育委員会の山村信榮氏の「考古学から見た万葉世界」、筑紫野市教育委員会の小鹿野亮氏の「太宰府あたりの古代官道を見つけよう」、いずれも映像を駆使した興味深いスピーチで、しかも歌と場所がリアルに結びつくという、初めてのコラボレーション。約百二十名の参加があり大変好評でした。「ワールドワーク」が4回行われました。

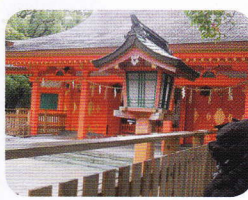
第一回 大宰府・豊前路ルート
11月7日（土）9時00分～12時00分

大宰府政庁跡からスタート。戒壇院、観世音寺と千年も前に政治・宗教の最も重要な施設の並んでいたところ。東に抜ける石坂越えルートを望みながら、九州国立博物館まで秋色深まる古道ウォーキングでした。山村信榮氏の当時の髭髻させるような解説付き。参加二十二名。



第二回 大宰府路・東西横断ルート
11月14日（土）9時00分～12時00分

日本で一番古い「住吉さん」、住吉神社集合。博多と鴻臚館を結ぶ重要古代官道がこの門前を通っていました。ここから東北に向かう。延喜式に載っている美野（よしの）駅は今の博多駅と一致。美野駅は博多・鴻臚館・大宰府・山陽道4方面の十字路で、交通の要衝は今も昔も変わりません。ここから都に向かう大路「山陽道」は御笠川を渡り、直線路で夷守（ひなもり）駅に向かっています。東光院などの神社も覗きながら、日守神社までのコースで、ここには万葉歌碑があります。福岡市教育委員会吉留秀敏氏の解説。参加二十六名。



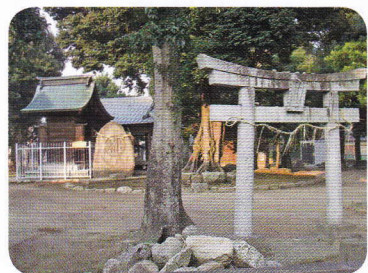
第三回 壱岐対馬路・東西横断ルート
11月21日（土）9時00分～12時00分

九電体育館前からスタート。ここから早良平野を一直線に抜けて、壱岐、対馬に向かうこの官道は朝鮮半島につながる国際ルートでした。浄水通り上から大休連山越え、今の動物園付近の山越えをし

て樋井川を渡り、九大田島寮前から約四キロ、有田・小田部まで古代の直線道路が歩ける貴重なところ。多少の山坂があっても直線にこだわった奈良・平安時代のいわば高速道路です。時速20キロで馬が飛ばしたのでした。後の太閤道にも使われました。途中七隈緑地の切り通しでは、この辺や南で水室の遺跡があったそう、鴻臚館の賓客もオンザロックの冷酒を嗜んだものか。原の辺で一致する国道202号のほうが曲がっています。高台の有田地区は古代から重要などところ、早良郡家官衙（ぐうけかんが、郡役所の官庁街）のまきに発掘中を見学。大きな門の跡らしい。吉留秀敏氏の解説。参加二十二名。

第四回 水城西門・東門バイパスルート
11月28日（土）9時00分～12時00分

西門ルートが鴻臚館と大宰府を結ぶ外国使節等を迎える迎賓道路だったのに対し、東門ルートは山陽道や博多の港から大宰府に通じるいわば通用ルートだったのでしよう。平安時代も中頃になるとあまり外国にカッコウつけなくてもいい頃になったのでしょうか。鴻臚館や壱岐対馬路から最短距離で大宰府に入るため、西門ルートの途中から東門ルートにバイパスするルートができたようで、この道はその後も使われてきました。「西の宰府みち」もほぼこのルートです。西鉄井尻駅から地祿神社、本行院を経て、筒井の地名のもとになった「筒井の井戸」などを経て、水城東門まで辿りました。吉留秀敏氏の解説。参加二十五名。



「ワークショップ長丘」
9月15日（火）、11月10日（火）

今年の新しい取り組みです。筑紫野市永岡の高台、永岡八幡の辺は昔から見通しの利く交通の重要拠点でした。1300年前にはここに永丘駅が設けられ、早馬が配置されていました。その実態を少しでも遡って探ろう、地元の詳細い皆さんと語り合って、調査しようという試みです。ここが故郷の岡部定一郎事務局長の準備による、2回の語る会で昔の話が出てきつあります。まだまだこれからですが、九州大学森誠子さんの調査表など片手に永岡公民館での集会です。10日には30名ほどが集まりました。

「ワークショップ城（き）の山道」

万葉集にも出てくる大宰府から基山城麓を通って筑後国府（久留米市）に至る西海道西路といって肥後・薩摩に通ずる道の山越えルート。島松尚宏理事（歩かんね太宰府）が中心になって地元の方々と討論中です。

「大募集 発見・論説・提案・創作」

市民の皆さんから情報を募集しています。例えば小字名などの地名です。車地・車路は古代官道のあったところでしょう。立石、道の距離標のような石の立っていたところ。ハヤマは早馬つまり駅のあったところ。大人・大人足形は巨人伝説、早馬で駅と駅を一飛びに走った：このほか大道などです。情報お待ちしています。随時事務局にお送りください。報告書・発表会でも使わせていただきます。

お子様も読める易しい解説書

「古代にも高速道路があった」出来上がりしました。今後は子供達や学校の皆さんにも伝えたいのです。

「市民シンポジウム」（成果発表会）

平成22年2月11日（木）13時00分～16時00分
天神ビル11Fホール

盛り沢山のテーマで計画進行中です。

お問い合わせ

092-716-8238

福岡城探訪

福岡藩中興の名君主

六代 黒田 継高

藤 金之助



宣政の養嗣子
となつて五年
後の享保四年
(一七一九年)
十一月、継高が
十七歳で六代福
岡藩主となる。

これより実に五十一年の永い間藩主の地位にあり、江戸時代中期の藩政を担うことになる。

継高が藩主となつた翌年の二月、それまで実際に藩政を見てきた直方藩主で実父の長清が死去し、後継者が無いため直方藩は廃され五万石は本藩である福岡藩に返還され、家臣たちも福岡に移住、主として西新町あたりに居住した。

その年の五月、初めて江戸から福岡にお国入りをした継高は直ちに藩士を集め、勤務に精励しよう命じた後、すぐさま長崎警備に赴くなど忙しい日程をこなす。

継高の着任初頭は若年であつたこともあつて藩政をあずかる重臣の間に反目、対立などあつてその間、財政は窮乏し、農村は疲弊、城下町は衰微するにつづくと難題山積みの有様であつた。

藩政の立て直しに着手した継高は、

門閥家老を退け、吉田治年、栄年親子という実力者を抜擢、人事の刷新をはかるとともに農政については遠賀堀川の完成など治水、灌漑につとめ荒地の再開発を行い、若者を中心に新百姓を取り立て農村の復興に力を注ぎ、年貢の収入増に努力をした。また宗像郡武丸村の正助を孝子の亀鑑として年貢米を免じその母の養育米を与えるなど氣配りも示した。

都市政策についても商品流通の課税を整備、改善し経済的機能の回復をはかった。

家臣に対してもこと細かな儉約令を出し、一時勤休令、今でいう一時帰休を実施、参勤交代の供連れを減らすなど支出の大巾削減をした。

反面、武芸を奨励、藩の刀工、信国重包が名工として幕府の表彰を受け藩主として大いに面目をほどこしたこともあつた。

まさに獅子奮迅の継高の治世に、自然災害や大火災が容赦なく次から次へと襲ってくる。享保五年の荒戸の大火事から志賀島の火事、ついには福岡城内の出火で継高は自らが建てた田島の

別邸、友泉亭に避難したほどである。また江戸でも赤坂の中屋敷、桜田の上屋敷が類焼によつて焼失した。

そのほか暴風、大雨、洪水による田畑の浸水、家屋の流失、山崩れなど相次いで起る。

さらに享保十七年、前代未聞の大飢饉に襲われることになる。長雨と害虫発生で、米の収穫は平年の一割五分、七万石という凶作で飢餓と疫病の死者九万人。藩の人口の1/3を失う悲惨な結果を招く。後年、この時の死者の霊を弔うため飢人地蔵が各地に立てられた。

藩や幕府の対策が及ばなかつた反省から継高は「用心除」という制度を作つて米の備蓄につとめ、目安箱を作つた。また人口減を防ぐため間引、捨子を厳しく禁じた。

筑前六宿の人馬賃の値上げを幕府に申請、しふる幕府をうまく説得して成功するなど継高の政治の手腕を物語る業績も多い。

継高は初代長政が始めた「異見会」を毎月一回開いて家臣の意見もよく聞いたという。

継高は名君といわれながら、その治世は苦勞の連続であつた。子供は多かつたが長男重政は二十六歳、三男長経も二十二歳で亡くなり後継者に恵まれず、一橋家の徳川宗尹の二男隼之助を養子に迎え、六十七歳で隠居、安永四年(一七七五年)六月十七日、福岡城内で逝去、七十三歳であつた。

ご案内

黒田如水・長政の戦跡を訪ねる

文禄・慶長の役

韓国に倭城を訪ねる旅

企画…福岡市民の会

同行解説

中村修身氏

(北部九州中近世城郭研究会会長)

期間…平成二十二年三月二十六日(金)

～二十九日(月)四日間

旅行代金…五万八千円

訪問箇所

機張倭城(黒田長政)

南山倭城、順天倭城(小西行長)

西生浦倭城(加藤清正)

鎮海・海軍兵学校(亀甲船)

晋州(晋州城、博物館)

友鹿洞(沙也 可村)

釜山市立博物館



お申し込み・お問い合わせ：西日本新聞旅行
TEL 092-711-5518

会員の声

市民大学終講にあたって所感文

東区在住 主婦

福岡に住んで半世紀、町の寺や神社に参拝するときも手を合わせて祈るのみで深く考えたことはありませんでした。日頃から使いなれた博多織や身近にある博多人形・時折家族で楽しむ博多伝統のガメ煮や珍しいと買い求めたオキユート。本当に生活に深く根ざした郷土の祭りや行事の根源と歴史に関係ない人生でした。七月から十一月の五ヶ月に亘り三十回の市民大学を受講して生まれ変わった気がし頭の中が若々しい活気にあふれております。

何の気がねもなく、すんなりと受講生になり毎日が楽しくて学生時代になった気分を受講しました。熱心な講師の先生に博多の持つ素晴らしい歴史資源・文化の入口で日本で最初のいろいろな事を教えて頂きました。

教育委員会の皆様にはそれぞれ専門分野の研究成果をわかり易く説明してもらいよく理解できました。現地研修では東区、博多区、中央区や西区の珍しい処や、名所、日頃は何となく見逃していた町のたまたまに伝わる先祖が残してくれた遺産を知ることができました。博多伝統の食文化や博多商人の活躍で今日の福岡がなりたっているのです。

博多織人間国宝の小川先生からは、修業時の苦労と日々の研究努力によつて積みあげられた世界に誇る博多織の歴史を教えてもらいました。本当に素晴らしい講義でした。

能狂言の野村先生からは発声法の基礎から狂言の観劇法など伝統芸術にふれることができ感激しました。

一個人としてこれだけの講師先生を受講しようとしたら、何年もの受講料も何倍かになったと思います。勝手なお願ひですが、福岡出身の人物について一項目をセツトしてください。事務局の皆さんの心温まる受入れとお世話に感謝しております。

今度は友達を誘って一緒に受講したいと思っております。そのときはよろしく願ひします。

福岡歴史観光市民大学 終講式から

平成二十一年度の福岡歴史観光市民大学は、七月初頭から十一月末日迄の五ヶ月間に亘り三十回の講座を実施して終了しました。

延五十五名の諸先生は郷土史を中心に研究資料を提出され最新の情報により熱心に講義されました。特に本年度は福岡市教育委員会の中堅職員で各地区の史跡、遺跡等を担当する七名の学芸員が日頃の研究成果と分析解明の成果を発表され、身近に残る失人の遺跡を知ることができました。郷土の文化、産業、芸能等の自然科学部門は福岡市の図書館長等から市内に存在する豊富な資産の活用について指針を示されました。市民として遺産を守り伝えていくことの重要性を再認識しました。

伝統工芸部門では博多織人間国宝の小川先生から知識、技能習得の苦労と精進努力、更に日進月歩の世で博多織を守り伝えて行くことの大切さは、保守ではなく常に最新技術との融合を考えて行く積極進取な環境にあるとの貴重な教訓を頂きました。

能狂言の野村先生からは、基礎となる発声法と芸術性向上の為に全員が協力しあつて日々練習を積み重ねる事が重要との話を聞きました。現地研修は東区、中央区、博多区、西区についてガイド実施中の皆様から各地の名所旧跡や特徴について細部迄説明があり今後の勉強の参考となりました。昨年度の受講者や講義された諸先生との交流会は会場一杯の盛況で予想を超える好評を頂き同じ想いを持つ同志の絆を強固なものとなりました。来年は更に参加者の増加が見込まれ会場の設定に嬉しい苦労が予想されます。

終業式は十一月末日に来賓の祝詞を頂きつつ晴れの修業証を手に入れた六十二名の人が巣立つて行かれました。これからも益々研究努力されて福岡市の魅力を多くの皆さんに伝えられるよう願っております。

平成二十二年度は更なる内容充実につとめて三期生を迎えるべく準備しております。

津田慶一



戦国の世、秀吉を天下人に押し上げた軍師・黒田官兵衛（如水）のものがたり。官兵衛は、どんな夢を描いていたのでしょうか。ご家族でお読みください。定価 本体一三三〇円（税込）

発行所 神戸新聞総合出版センター
〒650-0044 神戸市中央区東川崎町 1-5-7 神戸情報文化ビル 9F
TEL 078-362-7140(代) FAX 078-361-7552
http://www.kobe-np.co.jp/syuppan/
問い合わせ 鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会 TEL 092-716-8238

新規会員登録 (平成22年1月8日現在)

正会員 (個人)

二川 昭一

一般会員 (個人)

太田 佑子 久保良三
机元 浩一 山内憲行

正会員 (団体)

ライオンスクラブ国際協会
3371A地区41R

編集後記

平成二十二年度の新年を迎えました。市民の会は十七年二月、NPO法人として発足以来目標に向かって、ただひたすら一つの道を進んで丸五年になるうとしています。

その間、市民の会をご支援くださいました会員の皆様方に事務局員一同心よりお礼申しあげます。これからも一丸となつて事業等に取り組んでまいります。ぜひ、会員の皆様方の声をお聴かせください。

編集・発行: 鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会

住所: 〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-12-15
読売福岡ビル7階

TEL: 092-716-8238
FAX: 092-716-8254
HPアドレス: <http://fukuokajokorokan.npgg.jp/>
E-mail: fukuokajo@tos.bbq.jp

デザイン・印刷: S&Mトラスト株式会社